第1回こどもまんなかラウンドテーブル
ぷちテーブル② 小さな声の、大きな意味～こどもの声をどう拾い、受け止めるか～ ワークまとめ

どこでどうやって聞く？

場所

・こどもが「ここでなら何でも言える」場所が必要
・秘密が守られる場所で
・信頼関係がある場所
・誰かがいる場所

〇家
・寝る前に話す
・お風呂で話す
・家で対面

〇学校
・学校・幼稚園・保育園・塾
・先生との面談
・学校での匿名のアンケート

〇第3の居場所
・公園など
・自治会(育成会)
・こどもが参加できるイベント・場所
・こどものたまりば、遊び場
・居場所(子どもの居場所シリウスなど)
・放課後の居場所、地域の居場所(学びの教室、こども食堂)

〇非対面
・こどもの声「ポスト」(いつでも書ける。見えないで書ける。)
・子どもステーションに声をきくコーナーを作り自由に書いてもらう
・アンケート、シールアンケートなど
・ゲームの中の対話、メール、電話など話しやすい方法
・SNS(LINE、インスタ、TikTok、YouTube)

〇対面
・生活の中で自然に聞く
・参加した中で知り合いになる
・そばにいる人がつぶやきをひろう、様子を観る
・家族・友達・先生との会話
・雑談、おしゃべり
・年代別・年代の垣根なくこども会議(モデレーターが必要)
・遊びながら、食べながら

・観察する(顔色、行動)

どのように聞く？

〇聞き方
・傾聴(とにかく聞く、受け止める)
・「どうしたの？」「何があったの？」と聴く
・「大丈夫？」「私にできることある？」と聴く
・マンツーマン(こどもと聴いてほしい人)
・真意を聞いていく
・声のトーン、本気で聞く
・こどもへの聞き方、対応の仕方に注意
・訓練をしていないなら自分らしくでもいい
・「聴いてあげる」「話してごらん」はダメ
・言いたくないことは言わなくてもOK
・タイミングや内容はこどもが決める
・何気ないこどもの声を聞きとめる
・何でも話していい
・笑顔(安心感)

〇こどもとの関係性
・口外しない信頼関係作った上で(ラポール)
・言いやすい関係
・いい子ぶらなくていい
・安心・安全
・こどもの声を拾える人が必要
・大人の役割、受け止め方

〇姿勢
・全肯定、承認する
・共感する、受容する
・否定しない、ジャッジしない
・説教しない、アドバイスしない
・話の腰を折らない、誘導しない
・言った言葉を使う
・聞きっぱなしにしない、無視しない
・きちんと対応する
・同じ目線
・立場を置いて聞く
・こどものそばによりそってみる
・話してくれたことに感謝
・こどもの様子をしっかり見る
・こどもの興味などを理解する
・言葉をそのままうけとめない
・こどもから感じ取れるよう自分を磨く
・何も言わず抱きしめる

“こどもの声”とは？

内容

〇学校
・学校の先生のこと
・学校に行きたくない、休みたい
・校則への不満

〇家
・親のこと(特に母親)
・親からの虐待
・家に帰りたくない
・家族関係での悩み

〇その他
・今どんなことを考えている？
・友達とのLINE内容
・希望、よろこび
・悩み、SOS
・互いに覚悟した時に聞けることば
・大人が避けたい・大人に言えない話
・大人が聞かずとも自然に話してくれる事
・日常の出来事、そこからの想い、会話
・忖度なしのことば、自由な発言
・要望・文句も声
・日記

非言語
・本音は行動に現れる
・大きな声を出す
・暴れる
・沈黙・話さない
・大人を困らせる
・友人とのトラブル(暴言を吐く、手足を出す等)
・不登校
・身体反応(食欲、頭痛・腹痛、しぐさ、元気がない、表情)
・赤ちゃん・幼児にも表明できる泣き声
・絵

こどもの環境
・親の意見に従い、自分の意見通らない
・遊ぶ場所が少ない
・自由な時間の作り方が難しい
・みんな忙しそうで遊ぶ友達がいない
・発達障がい、情緒クラス問題、グレーで整ってない?!

こどもの気持ち
・顔の見える関係の人に相談したい
・何気ない話を聞いてほしい
・自分の気持ち・本音はなかなか言わない…
・自分を理解してほしい

どう活かす？

こどもへの確認
・こどもに自己決定権を
・こどもにどうして欲しいのか聞く
・声をかけてみる
・聴いてもらうだけでいいか
・解決するために情報共有についてこどもに確認する
・約束の確認
・こどもの中に答えがあるかも？

場づくり
・楽しい遊び場を作る
・誰でも行ける自由な場づくり
・誰でも参加できる、興味が持てるイベントの企画作り

大人の連携

〇親
・実は親も悩んでいる
・親の目が必要
・親同士の連携

〇専門家
・専門家の意見を聴く
・相談(行政に相談、学校に報告)、相談窓口
・問題あるのは市や警察

・まずは活かす側の整理
・こどもの声を拾った人たちが相談できる場所や人が必要
・大人が学べる場所づくり
・つながり

ラウンドテーブルの参加者**で**誰でも参加できる“場・企画づくり”を実施する
ラウンドテーブル**が**“大人がこどもたちのために連携できる場”となる